

東北日報

本報創刊三十周年 郵政特許第一號 印刷部 印刷部 印刷部

見當がつかぬ 今年の年賀郵便

平局では一割減を豫想 目下対策を練つておる

帥走も間近かになつて平郵便局では例年ならもうそろそろ一年中の總仕舞ひ年賀郵便に對する戰闘準備に取りかゝる頃であるが、今年には消費節約緊縮宣傳の影響で年賀状のやりとりもぐんと緊縮されるだらうといふ觀測のために見當がつかず困惑の態である。同局の思惑では地方各般の實情に照らして今年は先づ昨年より五割減と見てゐるが年賀郵便は、當てにならないものはない。現に昨年などは不景氣のため年賀状は例年より餘程減るだらうとの豫想が行はれて居つたところであらうといふ。

にはからんや元旦は十一萬七千四百通で近年のレコードを作つた始末結局大勢は受附開始の間にならなければ見極めがつかないやうで同局では豫め局として大体の方針を定めて本局の通牒あり次第直ちに正式準備に着手することとして目下それれ對策を練つて居るが、たゞし豫想が適中したところでは一割減では取扱人員が昨年と別に大差はない従つて今年も昨年通りに市内の學生を臨時雇として賀状の處理程減るだらうとの豫想が當らしめることになるだらうといふ。

水害後報

被害額の筆頭は 稲束の流失で

次は堤防の欠潰等 各町村の判明した分

石城郡地方に於ける水害被害が一番甚大なのは水稻の況は昨報の如くであるが被流失であつて郡農會では種

調査をなした上対策を講ずる事になつた家屋の浸水橋梁の流失等郡内各地方を通じての被害も亦甚大なるものであるが平署に於て調査し被害状況を見ると左

入山坑内の奥深くで 慘劇—夫婦瓦斯心中

男は日本橋生れの病坑夫 女は大浦村生れの椎名マツ(二二八)

石城郡湯本町入山炭礦第四坑長屋居住坑夫東京市日本橋區新泉町生れ川口徳太郎(四〇)同人内縁の妻石城郡大浦村推名マツ(二二八)の兩名は去る二十六日午前八時頃同坑内に瓦斯發生し入坑全く危険であると係員より注意を受けてゐたにも拘らず共に入坑して窒息死亡してゐるのを二十七日係員が発見したが川口は常に病身であるにマツが同情し心中を圖つたものらしくこうした出来事は常磐地方炭礦界初まつて以來の珍事である。

此の寒空に咲き

はこる高月臺の櫻

雪かき見違ふ程の大霜降る今日此の頃のこの寒ぞらに珍らしくも、櫻か咲いておると云ふ話……平町高月臺警中校舎の北裏丁度高月家の庭先とも見ゆる場所にある高さ一丈餘りの古い櫻が小さい花辨を薄桃色にボーツと彩

流しは六ヶ所 湯本町入山炭礦坑夫長屋軍鎮守府から七百十四名制に出水し百五十戸にしん水家庭は全部附近の小學に避難し炭礦事務所では検査を執行するが鎮守府の宣傳計畫に基づいて今年はいかに軍思想普及の宣傳ボタター其他の印刷物を配付し勞集につとめる等 尚石城郡の検査日割は一月七、八、九の三日間平町第一小學校で執行

志願兵募集人員は横須賀海軍鎮守府から七百十四名制に比して今年に比して七百七名の増名で明年一月二十八日から縣下各都市で志願兵の検査を執行するが鎮守府の宣傳計畫に基づいて今年はいかに軍思想普及の宣傳ボタター其他の印刷物を配付し勞集につとめる等 尚石城郡の検査日割は一月七、八、九の三日間平町第一小學校で執行

夫殺し公判開廷 双葉郡龍田村井出松本イク(三四)にかゝる夫殺しの第一回公判は愈々明二十八日平支署に於て開廷

北郷等一味 明日福島へ護送 債券偽造の一味上野、北郷、小村の四名は明二十八日福島に愈々護送される事となつた

平町に 衣類保存會を 伊藤君等設けらる 平町白銀町西洋洗濯店主伊藤貞衛氏は平町に於ける洗濯賃が比較的高價にあると云ふ事を痛感しそれを緩和する爲衣類保存會を組織洗濯賃の低廉洗濯物の迅速第に献身的努力をなす事となり目下會員募集中にあるが各新聞記者各一流實業家等が網羅されてある

石城郡 海軍志願検査 明年一月七日から 三日間第一校で

話の種 昨二十六日午前四時半ころ、あの暴風雨の眞最中平郡線赤井、平間平驛を去る五十チエーン丁度好間軌道のサン橋下が十間程崩れて警越線を埋めてゐたのを巡回中の平保線工夫が発見直ちに數名の工夫と共に取り除いたが、それから一時間程過ぎて平驛發の郡山行一番

明日の天気 (小名濱測候所) 明二十八日朝曇りがちですが幾分西の風強く次第に晴れるみ込みです

サンライツジャズバンド 演 續

二十八日より御好週間プログラム

ジャズ部員伴奏。獨唱

松竹大作 流行小唄映画 原 作……葛 見 丈 夫 監 督……比 志 沼 千 定

佐 渡 お け さ 情 緒

岩 田 祐 吉、浪 花 友 子 主 演

佐 渡 へい、草 木 も な び け 佐 渡 は 居 よ い か 住 み よ い か 來 い と 云 ふ た だ て 行 か り よ か 佐 渡 へ 佐 渡 は 四 十 九 里 波 の 上 獨 唱……東 京 子 嬢

ジャズ部員 演奏餘興數番

御好み再上映名画

美 劍 士 澤 田 清、中 村 英 雄、櫻 井 京 子 主 演

連 續 落 花 劍 光 錄 上 映 全 部

初 篇 終 篇 迄 全 二 十 四 卷

日 活 大 作 雜 誌 富 士 連 載

原 作……三 上 於 菟 吉 監 督……清 瀨 英 次 郎

料 金 普 通 來 週 上 映 維 新 的 京 絡 平 館 日 活 松 竹

早くて安い！ 活版の印刷屋 は……はてどこ だらう……？

塔中の怪 (卅二)

無名氏

「やあまた現れたぞ大魔影すには居られない長岡探偵が空中の幻影がそれ塔の頂は今もなほしきりに驚いてきては黒旗を振る白い煙り居る私の顔を見て武田君まが上るあれは一体何だ?、だ恐れてゐるのか、あの幻空中の幻影の正体は何者だ影をば、君の如き人は恐ら?何者だ?」と私は言葉急ぐは今少し學問がなかつたら矢張魔術の海賊のやうにしく問ひかけた。

長岡探偵は静かに立上り小あの幻影を宇宙の神様だと手をかざして其方を仰ぎ見信じて、おそれ敬ふ連中だたが「如何にもまた現はれな。」と聲高く笑ひつゝ、たり空中の魔影あ不思議「それでは語らう聴き給へなる恐ろしき幻影を見てはあのかしき空中の幻影迷信強き魔術の海賊共が宇即ち魔術の大海賊共におそ宙の大魔術と敬まひおそれるべき迷信を起させて全世ものも無理はない。」と言ひ界を騒がせ雪子嬢を奪ひ去つゝ私の方にむき直り

「けれど世の中には決してな苦難を興へて居るあのか魔術だの幽霊だまた人間の現矢張黒面塔の魔王と呼ばれ象のあらう筈はない、あの恐ろしき崇りをなして總て我等の苦難の原因となつて居る空中の幻影もその正体を見破つて見れば、左まで不思議な物でなくまた左まで驚くべき物でなく現はれる物で何が故にかく現はれるか今より話す。」

世の中には決して魔術などあらう筈はない、あの空中の魔影もその正体を見破つて見れば左迄不思議な物魂はとくにこの世界より消でなくまた、左迄驚くべきえさりの骨すら最早や墓ものでないとの長岡探偵のにも残つては居るまいに、言葉私も論さうとは信じその昔の銅銅王が今日この居るもの、今現に空中に怪しきま影を現は不思議なる現象をながめし我等の上にも非常な苦雲でもなく煙りでもなく難を興へて居るとは何うしながら魔術の様なる怪しきても合點が行かぬ。長岡探偵に接してはさうも驚か偵は笑つて

急募
十三四歳以上の印刷見習工三名至急募集す。

本社印刷部
電話八五二番

磐城共済病院組織

内科小兒科 (院長毎日診療)
院長 醫學博士 難波
内科部長 醫學博士 中西 波
外科、内臓科、整形外科、皮膚泌尿科
外科部長 醫學博士 桂 重
毎日曜手術 醫學博士 家 憲
産婦人科女子尿科
産婦人科部長 醫學博士 松 枝
耳鼻咽喉科
部長 醫學士 井上 俊次
部 長 醫學士 渡部 貞
主任 醫學博士 難波
X 光線科、物理學的診療
主任 醫學博士 藤 波
衛生試験所 醫學博士 中 西 慶
衛生試験所 技師 小 熊 英
藥局 局長 吉 本 孝
本院醫事法制嘱託法學士 岡 澤 忠
本院主管 賀 澤 忠
治療を申込る、方は當相談所へ御話し下さい

一、衛生試験所 (共済病院内)
一、病氣相談所 (共済病院内)
一、救療所 (共済病院内)
救療を申込る、方は當相談所へ御話し下さい

冬の大出賣

御婚禮用品各種
丸帯、江戸袴、訪問着
御召、錦紗小紋、袴地

防寒用品各種
レデーコート地、ジヨ
ール、羅紗オーバー、
既成コート、

新製ベビー用品陳列
ベビー洋服、メリヤス
肌着、袖ナシ、男女初
着、パンツ、各種

平 三井吳服店

特賣!
たひら正宗 福島縣清酒品評會
一等賞受領
花 春 同優等賞受領

鹽屋最上醬油釀造元

山崎合名會社
平町主橋 電話一〇番二七番
東京上野車坂四三

東京支店
電話下谷五七一二番

洋食イソギ食堂
電話四六〇

●電話番號變更披露
先日迄電話七五七を今度は
電話八五二
に變更致しました

今後御記憶下さいまして精々御利用あらんことを
御願ひ申上ます

本社印刷部 丸山印刷所

外科一般 (入院隨意)
内臓外科専門
花柳病科
平町六丁目(橋際)

木村科醫院
電話三〇九番

確實敏捷は(久)の生命なり
和洋鐵金物問屋
磐城セメト株式会社特約代理店

漆屋久商店

平五丁目電話九三九番
良品廉賣に勝る略しな

學生外套特賣

○當店特製の生地裁縫共に申分ない品です

小學生用 8圓50錢ヨリ
中學生用 11圓00錢ヨリ

なかや洋服店
平二電 203

御見合の御寫眞は
中島寫眞館
御婚禮の御寫眞は